

町長 多世代間でのコミュニケーションは、こどもたちの心を豊かにすると思う。それが、今の町がめざす「共生社会」の土台になっていると感じます。

松元選手 松元選手が、チームの中で、「コミュニケーションをとるときに、大切にしていることはありますか？」

松元選手 聞こえないからこそ、僕は一対一の対話を誰より大切にしています。チームでもキャプテンとして、全員とじっくり向き合う時間を作りました。



▲ジュニアサッカークラブでの餅つき(松元選手:左端)

町長 宇美町には、昔から地域でこどもを育てようとする文化がありました。

松元選手 町長とはサッカー以外にも、昔一緒に餅つきや山登りをしましたよね。ほかに、地域の方々と田植えや野菜作り体験、こども会での行事などで、多世代やさまざまな人と一緒に活動して、関係を築いてきました。

「する・みる・ささえる」
スポーツでつながる多世代—

町長 これからの、松元選手の思い描く夢について聞かせてください。

松元選手 アスリートとしては、2年後のワールドカップ、そして4年後のデフリンピックで世界一になることが夢です。町のスポーツ推進委員としては、宇美町を「スポーツで全世代がつながる

町長 それは大事なことです。耳が聞こえていても伝わらないこともある。「伝えよう、知ろう」とする強い意志こそがコミュニケーションの本質だと思います。聞こえる・聞こえないに関わらず、お互いが相手を理解しようとする意志があれば、思いは必ず通じ合えるはずですよ。

松元選手 そうなんです。この町で育った僕だからこそ、キャプテンとしてチームを一つにできたいと思います。



新春特別対談 ～誰もが住んでよかったと誇れる町へ～

「世界2位という結果を、誇りに思って良いんだ」。デフリンピックの舞台で日の丸を背負い、歴史を塗り替えた松元卓巳選手(まつもと たくみ)の言葉には、育ち、そして今も居住する宇美町への誇りと感謝があふれていました。

かつて、町内のジュニアサッカークラブで、「監督と選手」として共に汗を流した二人。時を経て、町を担うリーダーと、世界を相手に闘うアスリートとして、対談を行いました。

二人の視点が交差して見えたのは、多世代が支え合い、多様な体験をととして成長できる「共生社会」の新しい形でした。希望に満ちた新春特別対談をお届けします。

—世界2位の称号と—

みんなで闘った誇り—

町長 松元選手、デフリンピック銀メダル獲得おめでとうございます。

松元選手 ありがとうございます。直後は、「金メダルを獲れず申し訳ない」という気持ちが強かったです。

町長 決勝戦直後は悔しさもあったと思いますが、「世界で2番目」というのは、大きな誇りですよ。

松元選手 町長や町民の皆さんがパブリックビューイングで応援してくださる姿をニュースで見て、この結果を誇りに思っていたんだと感ずることができました。皆さんの応援が嬉しかったです。

町長 私は誇りを持つことが一番大事だと思います。今日贈ってくれた、この日本代表の「八咫鳥」のエンブレムが入ったユニフォーム。これも誇りの象徴ですね。

松元選手 以前まで、デフサッカーだけ別のエンブレムでしたからね。けれど、町長や仲間たちと声をあげ続け、ようやくサムライブルーの日本代表と同じユニフォームを背負えるようになりました。

町長 声をあげて変えていく。これは「誰もが等しく、誇りを持って挑戦できる社会の実現にも通じている」と思います。

町にしたいという夢があります。

町長 それは具体的にどういうイメージですか？

松元選手 特に、スポーツを「みる・ささえる」という点で、自分のこどもや孫だけでなく、地域のこどもたちの試合をみんなで応援に行く文化を作りたいと思います。

町長 高齢者も外に出ることや、地域・人とながらぎにつなげられれば、孤独も防げるし、こどもたちも応援されることで誇りを持てますね。

松元選手 この町なら、そんな新しい共生の形が実現できると信じています。



—これからを担う—
こどもたちに伝えたいこと—

松元選手 とにかくいろいろな体験をしてほしいです。夢は一つでなくてもいい。途中であきらめても、変わってもいい。



▲松元選手の誇りの証である銀メダル

いから、まずは好きなことにどんどんチャレンジしてほしいです。

町長 昔は、みんなで集まって野球や相撲などをしたり、川遊びで、石の上をバランスをとりながら飛んで遊んだりしていました。遊びから好きなことを見つけたり。

松元選手 僕たちの世代って、いろいろなスポーツをした中で、少しずつ絞っていききました。あの経験があるから、今の僕があります。早くから一つに絞らず、いろいろな体験の中から夢を見つけたいです。

町長 大切なことですね。時代の変化の中でも、アップデートして工夫をしながら、多様な体験ができる環境を整えることが町や地域の役目だと感じます。誰もが「宇美町に住んでよかった」と誇れる町を、これからも一緒につくっていきましょう。

—松元選手の強さの原点とは—

松元選手 僕は、宇美町で育つ中で、自分に障がいがあることを強く意識したことがなかったんです。

町長 小・中学校の友達、先生、サッカーの仲間、地域の人たち、松元選手を取り巻くみんなが、障がいのある・なしに関わらず接していたということですね。

松元選手 そうですね。この「心のバリアフリーな環境」こそが、今の僕の自信の原点になっています。



▲ユニフォームの八咫鳥のエンブレム



▲松元選手から、日本代表ユニフォームが贈られました